

大学セミナーハウス開館50周年記念会 鈴木康司館長挨拶

皆さま、お早うございます。本日のセミナーハウス50周年記念会にわざわざご参集くださいます、誠にありがとうございます。

ご存知のように、当大学セミナーハウスは今から51年前、この野猿峠に土地を得て発足いたしました。世界的建築家ル・コルビュジェの愛弟子でおられた早稲田大学の吉阪隆正教授の設計によるユニークな建築によって形となったのであります。国際基督教大学の飯田宗一郎氏の発案により、東京大学をはじめとする都内の有力な国・公・私立大学13校が発起人校となり、「大学という機構の外にあって、大学教育と大学相互の交流に協力し、大学に足りないものを補うこと。教師と学生が向き合い、学生相互の接触による教育の復活を目指すこと」、これがセミナーハウスの理念でありました。

この理念に賛同して、当法人を支えようとする数多くの大学が会員校としてお集まりくださったのが創立当時の状況でありました。それから51年、時代は激しく移り変わりましたが、セミナーハウスは会員校、非会員校を問わず、大学関係者に支えられて今日まで活動を続けております。もちろん当初の理念は持ち続け、かつ、時代の変化に適応すべく、こちらにも柔軟に対処しつつ頑張っております。

す。大学を対象とした活動だけでなく、高校から小学校までもが参加できる活動を考え、かつ、社会人や企業のご要望に応え、新人研修などにも門戸を開いて、社会の変化に対応できる組織に変わってまいりました。更に施設面でも講堂に防音工事を行って音楽関係者に喜ばれております。

それでも、会員校すべてが協力してセミナーハウスを支えてゆくという当初の理念を知る方々が減り、年月が経つにつれて、費用対効果のみを求めて、退会する大学も出てまいりました。我々としては残念ではありますが、時代の変化を前提にすれば、この困難を乗り切ることが、セミナーハウス存続の必要条件であると心得て、館員一同、鋭意努力中であります。もちろん、設立からの理念をご理解くださって、変わらぬ、ご支援を与えてくださる会員校も数々あり、我々に勇気を与えてくださいます。また、この度東京都より大学セミナーハウス本館を東京都の歴史的建造物に指定したいとのご意向が示され、これもうれしい知らせとなりました。もとより、当セミナーハウスは大学生諸君を中心に、互いに切磋琢磨する場として続いております。会員校、非会員校を問わず、先生方と学生諸君が、この野猿峠の施設を利用し、大学の壁を越えて交流を重ねてくださ

ることを、我々は心から願っております。また、最近非常に多くの留学生が諸外国から来ておりますが、この人たちを支援するために留学生会館を建設し、日本語の論文コンクールにも力を入れております。

半世紀を超えて存続する当セミナーハウスにとりましては、今日が更に今後の半世紀に向けての出発点だと考えております。そのためには、日頃より、我々一同に力を与えてくださいます、千人会をはじめとする支援者の方々に感謝の意を表するのが何よりも存じまして、今日の催しを考えました。まず、セミナーハウスの活動に以前よりご理解を賜ります、作家の篠田節子さまを中心とした記念座談会『「インターカレッジ」の思想』を行い、その後、50周年を記念して新築しました食堂棟落成記念祝賀式、パーティを開かせていただきます。さらに記念セミナーとして、国立天文台の長谷川哲夫教授の講演、次いで落語家の立川吉笑師匠が改めてこれをアレンジしなおし、「宇宙と落語のコラボレーション」としてご披露くださいます。50周年記念セミナーは、これ以前にも、6月に比較憲法学の第一人者樋口陽一東京大学名誉教授を中心とした「憲法を学問する」を開きましたが、今日のセミナーはその2として企画いたしま

した。どのようなコラボレーションが成立するのか、我々も興味津々たる思いでおります。

昨日からの雨も早朝には止み、絶好の秋晴れとなりました。天もセミナーハウスを祝福してくれているようであります。

どうか皆様、今日一日ごゆっくりとお楽しみいただきたいと存じます。ありがとうございました。